

日本語が好きだから



静岡英和学院大学人間社会学部人間社会学科

初年次教育で日本語力のスキルアップを

■ 加藤良徳・人間社会学科准教授に聞く

静岡市の郊外に位置する丘陵地・日本平は、富士山を正面に駿河湾や清水の街、伊豆半島などの雄大なパノラマを眺望できる屈指の景勝地として知られています。そこに近接する静岡英和学院大学では、人間社会学部人間社会学科で初年次教育の一つとして新生を対象にした日本語力スキルアップのための必修授業を行ない、日本語検定を団体受検しています。日本語学と文章表現法が専門で、フォトリディングのインストラクターとして活躍する一方で、この授業を担当している加藤良徳准教授に話をうかがいました。



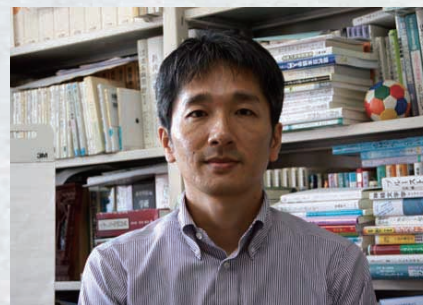
■ 専門家から見た学生の日本語力は いかがですか

人間社会学科では、学生の日本語力アップを目指すための講座があります。一つは1年生の前期に日本語表現法が必修となっており、さらに選択ですが、日本語文章構成法（1～2年）、ゼミの基礎演習（1～4年）の講座が用意されています。

日本語が大切だという認識が学生の間にも行き渡ってきており、授業はやりやすくなってきています。ただ、大学全入時代を迎え、あまり高校時代に勉強が得意ではなかった学生も多数大学に入学するようになったので、日本語教育の必要性は増していると思います。

自分たちが学生時代だったころには、先輩や同級

生とある意味競って本を読んだり学び合ったりしていましたが、現在の学生たちはそういった感覚がなく、全て授業で教えてもらうという受け身の姿勢が身についているように感じられます。



加藤良徳准教授

必修の日本語表現法は

どのような授業内容なのですか

『スキルアップ！ 日本語力』というテキストを使って授業を行っています。私も執筆者の一人なのですが、この本は主に大学1、2年生向けの日本語表現法テキストとして作成したもので、敬語や文法、語彙、表記、言葉の意味、漢字の6領域で構成されています。

小テストの問題はもちろん、授業案や指導上の工夫、参考文献なども載せてありますので、大学の教員ならばだれでも授業を行うことは可能だと思います。実際、私たちの場合は2人で170人弱の学生を相手に授業を行っています。もう一人の日本文学の教員も問題なく授業を終えることができました。

▶ 『スキルアップ！ 日本語力』



授業の方法としては、まずはじめの10分で宿題にしてあった漢字などの小テストを行い、その後20分ほどの説明、教科書を使った問題演習を行い、時間があれば補助用のプリントを解くか、コメントペーパーを書きます。

今までの実践として、例えば文章の書き写しからはじめ、要約、意見表明までを2年生の前期までに行えるように指導をしてきました。統計学の教員に協力してもらって、例えば書き写しを半期行った後の日本語力の変化状況などについて研究もしてきました。

その結果、日本語力と言っても、いわゆる文章力と語彙力・文法力という2つがあり、書き写しなどでは語彙力・文法力をアップさせることは難しく、

日本語検定のような語彙力・文法力アップの方策とともに、書き写し、要約の課題などを行うことによって、全体的な日本語力アップを行うことが可能であるということが分かってきました。そこで、本学ではそのような授業を行っています。

日本語検定を団体受検しているのはなぜですか

他の検定などでは一面的な能力しか測定することができないからです。文法力、語彙力なども必要です。そして、日本語検定を1年生のころから行うことによって、就職試験用の準備にもなることが大きな理由です。学生は敬語力などに自信がないのですが、しっかりと授業を行えば、それなりに不安は少なくなるようです。

今は希望者のみ、年間80人ぐらいの希望者が受検していますが、来年度からは入学生全員に3級以上の受検を義務づけることになりました。3級は全員が合格し、そのうちの何人を2級合格に導けるか、というようにもっていくことが、本学としては大切だと考えています。

受検結果についての学生の反応はいかがですか

3級の取得は授業で充分対応できることは分かっています。ただし2級になると、自学自習が大切になってきます。2級を受検する学生などは、個別に相談にやってきますし、秘書検定などの資格も受検しているようです。

受検結果をどのように判断・分析していますか

入学生全体を3級レベルにまでもっていければ、相当授業がやりやすくなると思います。1年生全員を一斉授業で教えはじめたのは今年度からなので結果はこれからだと思いますが、書き写しや要約をやっていた2年生、3年生に対しての教員の評価はおおむね好評です。日本語力については、やればやるだけの成果は表れるものだと感じています。